

各位

全3ページ

登録速報(2022-197)

2022年 8月 29日

クミアイ化学工業株式会社

企画普及部 普及課

登 録 速 報

下記の通り、注意事項変更届けを提出しましたので、ご連絡します。

提出日：2022年8月26日

(注意事項は届けを提出した段階で、登録変更となります)

記

1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号：第24379号

名 称：トップガンRフロアブル

2. 変更を生じた年月日

令和 4年 8月 26日

3. 変更を生じた事項及び変更の内容

農薬登録申請書第7項「農薬の使用上の注意事項」に、1)として以下の記載を追加し、以降を繰り下げ、別紙【変更後】のとおりとする。

【追加】

1) 使用量に合わせて秤量し、使いきること。

4. 変更の理由

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の対象化学物質が見直され(令和3年10月20日公布)、本剤に使用している物質が新たに法の対象となり、注意事項の追加が必要となったため。

別紙

7. 農薬の使用上の注意事項

【変更後】

- 1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 2) 本剤の使用にあたっては、使用前にボトルをよく振ること。
- 3) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なのでノビエの3葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは2葉期まで、ヒルムシロは発定期まで、セリは再生始期まで、オモダカは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、クログワイ、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。
- 4) クログワイ、オモダカ、シズイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 5) 苗の植付けが均一となるように代かき及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- 6) 散布の際は、湛水状態（水深3～5cm）で水の出入りを止めて散布すること。また、極端な浅水や深水での使用はさけること。
- 7) 散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させないように注意し、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- 8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 9) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ①砂質土壌の水田および漏水田（減水深2cm/日以上）。
 - ②軟弱苗を移植した水田。
 - ③極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
- 10) 直播水稻に使用する場合は以下に注意すること。
 - ①発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適正な覆土を行い、稲の1.5葉期以降に散布すること。
 - ②稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
 - ③除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布すること。
- 11) 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 12) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物に灌水しないこと。
- 13) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- 14) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。

- 15) 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稲用薬剤以外に使用しないこと。
- 16) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上